

平成24年4月20日

## 文化審議会答申

〔 国宝・重要文化財（美術工芸品）の指定及び  
登録有形文化財（美術工芸品）の登録について 〕

文化審議会（宮田 亮平 会長）は、4月20日に開催された同審議会において、2件の美術工芸品を国宝に、46件の美術工芸品を重要文化財に指定すること、また、1件の美術工芸品を登録有形文化財として登録することについて文部科学大臣に答申しましたので、お知らせします。

詳しくは、別添の資料「答申内容」、「解説」、「参考」をご覧ください。

＜担当＞ 文化庁文化財部美術学芸課

課長	江崎 典宏	（内線 2884）
主任調査官（絵画の部）	朝賀 浩	（内線 2890）
主任調査官（彫刻の部）	奥 健夫	（内線 2891）
主任調査官（工芸品の部）	齊藤 孝正	（内線 2889）
主任調査官（書跡・典籍、古文書の部）	池田 寿	（内線 2888）
主任調査官（考古資料の部）	原田 昌幸	（内線 2892）
主任調査官（歴史資料の部）	岡部 幹彦	（内線 2893）

電話：03-5253-4111（代表）  
03-6734-2887（直通）

# I. 答申内容

## 1. 国宝（美術工芸品）の指定

### <絵画の部>

（重要文化財を国宝に 1件）

- ① けんぽんちやくしよくあみださんぞんぞう ふえつひつ  
絹本著色阿弥陀三尊像 普悦筆 三幅

【所有者】宗教法人清浄華院（京都府京都市上京区寺町通広小路上る北ノ辺町395）  
京都国立博物館寄託

### <考古資料の部>

（重要文化財を国宝に 1件）

- ① どぐう  
土偶 一箇  
やまがたけんにしのみえいせきしゆつど  
山形県西ノ前遺跡出土

【所有者】山形県（山形県山形市松波2-8-1）  
山形県立博物館保管

## 2. 重要文化財（美術工芸品）の指定

### <絵画の部>

（重要美術品を重要文化財に 1件）

- ① けんぽんちやくしよくいしだまさつぐぞう  
絹本著色石田正継像 一幅  
ぶんろくさんねんくがつほくぼえりよう さん  
文禄三年九月伯蒲慧稜の賛がある

【所有者】宗教法人壽聖院（京都府京都市右京区花園妙心寺町44）  
大阪市立美術館寄託

（文化財を重要文化財に 2件）

- ① あおうどうでんぜんひつ  
銅版画東都名所図 亜欧堂田善筆 一帖  
(二十五図)  
あおうどうでんぜんひつ  
銅版画見本帖 亜欧堂田善筆 一帖  
(十二図)

【所有者】須賀川市（福島県須賀川市八幡町135）  
須賀川市立博物館保管

- ② けんほんちやくしよくさんじゆうさんしまかんのんぞう 絹本着色三十三所観音像 一幅  
けごんじ  
 【所有者】宗教法人華嚴寺（岐阜県揖斐郡揖斐川町谷汲徳積23）  
 大阪市立美術館寄託

<彫刻の部>

（文化財を重要文化財に 14件）

- ① もくぞうてんのうりゆうぞう 木造天王立像 一軀  
 【所有者】国（文化庁保管）

- ② もくぞうふどうみょうおうざぞう 木造不動明王坐像 一軀  
みょうおういん  
 【所有者】宗教法人明王院（神奈川県鎌倉市十二所32）

- ③ もくぞうらんけいどうりゆうざぞう 木造蘭溪道隆坐像 一軀  
せいらいあんかいさんどうあんち（西来庵開山堂安置）  
けんちやうじ  
 【所有者】宗教法人建長寺（神奈川県鎌倉市山之内8）

- ④ もくぞうじゆうにしんしやうりゆうぞう 木造十二神将立像 十二軀  
そうげんじ  
 【所有者】宗教法人曹源寺（神奈川県横須賀市公郷町3-23）  
 東京国立博物館寄託

- ⑤ もくぞうしんぞう 木造神像 二軀  
 { だんしんざぞう 男神坐像 一  
じよしんざぞう 女神坐像 一  
 【所有者】宗教法人箱根神社（神奈川県足柄下郡箱根町元箱根80-1）  
ほこねじんじや

- ⑥ もくぞうせんじゆかんのんざぞう 木造千手観音坐像 一軀  
ぞうない 像内に保元三年、ほうげんさんねん 大仏師僧だいぶつしそうじやくしやう 寂勝、ほんたいおんみのとのくにあ 本躰御身能登国阿れいぼくなど 阿□□□靈木等  
めい  
 の銘がある  
かいもんじ  
 【所有者】宗教法人海門寺（石川県七尾市大田町5-74）

- ⑦ もくぞうせんじゆかんのんりゆうぞう 木造千手観音立像 一軀  
こうじやうじ  
 【所有者】宗教法人高成寺（福井県小浜市青井1-11-1）

- ⑧ もくぞうあいぜんみょうおうざぞう  
木造愛染明王坐像 一軀  
ぞうない ごうすいりもくぞうあいぜんみょうおうざぞう おさ  
 像内に合子入木造愛染明王坐像を納める  
じもくじ  
 【所有者】宗教法人甚目寺（愛知県あま市甚目寺東門前24）
- ⑨ もくぞうしし  
木造獅子 一軀  
きょうおうごこくじ  
 【所有者】宗教法人教王護国寺（京都府京都市南区九条町1）
- ⑩ もくぞうみろくぶつざぞう  
木造弥勒仏坐像 一軀  
みろくじ  
 【所有者】宗教法人弥勒寺（奈良県大和高田市土庫2-8-13）  
 奈良国立博物館寄託
- ⑪ もくぞうてんじんざぞう  
木造天神坐像 一軀  
ぞうない ほうぞうりゆうよきだいまいようじんみしようたい しょうげんがんねんごがつとう めい  
 像内に奉造立与喜大明神御正躰、正元元年五月等の銘がある  
ぞうない じゅういちめんかんのんぎようぞう おさ  
 像内に十一面観音鏡像を納める  
よきてんまんじんじや  
 【所有者】宗教法人與喜天満神社（奈良県桜井市初瀬1）  
 奈良国立博物館寄託
- ⑫ もくぞうしゆこんごうしんりゆうぞう  
木造執金剛神立像 一軀  
ぞうない ほんじ あみだぶつ めい  
 像内にア(梵字)阿弥陀仏の銘がある  
もくぞうじんじやだいじようりゆうぞう  
 木造深沙大將立像 一軀  
こんごうぶじ  
 【所有者】宗教法人金剛峯寺（和歌山県伊都郡高野町高野山132）  
 高野山靈宝館保管
- ⑬ もくぞうあしかがたかうじざぞう  
木造足利尊氏坐像 一軀  
あんこくじ  
 【所有者】宗教法人安国寺（大分県国東市国東町安国寺2245）
- ⑭ どうぞうかんのんぼさつりゆうぞう  
銅造観音菩薩立像 一軀  
だいざかまち じんいんねん こくめい  
 台座框に壬寅年の刻銘がある  
はせでら  
 【所有者】宗教法人長谷寺（大分県中津市三光西秣1893）  
 中津市歴史民俗資料館寄託

## <工芸品の部>

(重要美術品を重要文化財に 1件)

- ① あからくうさぎもんこうごう赤楽兔文香合 こうえつさく光悦作 一合  
【所有者】公益財団法人出光美術館（東京都千代田区丸の内3-1-1）

(文化財を重要文化財に 3件)

- ① えがらつあしもんおおざら絵唐津芦文大皿 一枚  
【所有者】国（文化庁保管）
- ② はいかつぎてんもくちやわんにじ灰被天目茶碗(虹) 一口  
【所有者】国（文化庁保管）
- ③ でんぼうえ伝法衣 五領  
【所有者】とうふくじ宗教法人東福寺（京都府京都市東山区本町15-778）  
京都国立博物館寄託

## <書跡・典籍の部>

(重要美術品を重要文化財に 1件)

- ① ちようしゆうえいそう長秋詠藻 一帖  
【所有者】学校法人日本大学（東京都千代田区西神田2-6-16）  
日本大学総合学術情報センター保管

(文化財を重要文化財に 4件)

- ① しやくしおうらい釈氏往来 一卷  
しやうあん よ ねんじゆうがつにじゆう よ か しよしやおくがき  
正安四年十月廿四日書写奥書  
【所有者】国（国立国会図書館保管）
- ② ぎよくへんかんだいきゆうれいかん玉篇卷第九零卷 一卷  
しはいこんごうかいしき じあんがねんしよしや  
紙背金剛界私記(治安元年書写)  
【所有者】独立行政法人国立文化財機構（東京都台東区上野公園13-9）  
京都国立博物館保管
- ③ みねあいき峯相記 一冊  
えいしやうはちねんにがつなのかけいしよしやおくがき  
永正八年二月七日慶紹書写奥書  
【所有者】宗教法人斑鳩寺（兵庫県揖保郡太子町鶯709）  
太子町立歴史資料館寄託

- ④ ていきんおうらい 庭訓往来 二卷  
しとくさんねんしもつきみつかぶぜんのかみともひでしよしやおくがき  
至徳三年霜月三日豊前守朝英書写奥書

【所有者】 かんどじ 宗教法人神門寺（島根県出雲市塩冶町821）

<古文書の部>

（重要美術品を重要文化財に 1件）

- ① りんせんじりようおおいごうかいほんえず 臨川寺領大井郷界畔絵図 一鋪  
じようわさんねんちゆうとうむそうそせきうらがき  
貞和三年仲冬夢窓疎石裏書

【所有者】 てんりゆうじ 宗教法人天龍寺（京都府京都市右京区嵯峨天竜寺芒ノ馬場町68）  
京都国立博物館寄託

（文化財を重要文化財に 5件）

- ① じひつぽん 自筆本 二卷  
めいげつき 明月記 がろくがんねんなつ てんぶくがんねんじゆういち・じゆうにがつ  
嘉禄元年夏、天福元年十一・十二月

【所有者】 学校法人日本大学（東京都千代田区西神田2-6-16）  
日本大学総合学術情報センター保管

- ② ちくぶしまもんじよ 竹生島文書（三百十二通） 五卷、十三幅、四十九冊、二帖、  
二百四十三通  
さんびやくじゆうにつう

【所有者】 ほうごんじ 宗教法人宝厳寺（滋賀県長浜市早崎町1664）  
長浜市長浜城歴史博物館寄託

- ③ いかるがのしょうひきつけ 鵜庄引付 一冊

【所有者】 いかるがでら 宗教法人斑鳩寺（兵庫県揖保郡太子町鵜709）  
太子町立歴史資料館寄託

- ④ おおやまづみじんじやみしまけもんじよ にひやくじゆうつう 大山祇神社三島家文書（二百十通） 十六卷、二幅、百十通

【所有者】 おおやまづみじんじや 宗教法人大山祇神社（愛媛県今治市大三島町宮浦3327）

- ⑤ おだけもんじよ よんじゆうはちつう 小田家文書（四十八通） 一卷

【所有者】 長崎県（長崎県長崎市江戸町2-13）  
長崎県立対馬歴史民俗資料館保管

<考古資料の部>

(文化財を重要文化財に 8 件)

- ① あおもりけん に まいばし に いせき し ゆつ ど ひん  
青森県二枚橋2遺跡出土品 千三百八点  
【所有者】むつ市（青森県むつ市中央1-8-1）
- ② どくう  
土偶 一箇  
あおもりけん あり と とり たい よん いせき し ゆつ ど  
青森県有戸鳥井平4遺跡出土  
【所有者】野辺地町（青森県上北郡野辺地町野辺地123-1）  
野辺地町立歴史民俗資料館保管
- ③ ふくいけん くわ の いせき し ゆつ ど ひん  
福井県桑野遺跡出土品 八十五点  
【所有者】あわら市（福井県あわら市市姫3-1-1）  
あわら市教育委員会保管
- ④ あいちけん あさひ いせき し ゆつ ど ひん  
愛知県朝日遺跡出土品 二千二十八点  
【所有者】愛知県（愛知県名古屋市中区三の丸3-1-2）  
愛知県埋蔵文化財調査センター保管
- ⑤ あいちけん まごし な が ひ づ か こ ふん し ゆつ ど ひん  
愛知県馬越長火塚古墳出土品 三百十一点  
【所有者】豊橋市（愛知県豊橋市今橋町1）  
豊橋市美術博物館保管
- ⑥ ひょうごけん ごしきづか こふんしゆつどひん  
兵庫県五色塚古墳出土品 四十八点  
【所有者】神戸市（兵庫県神戸市中央区加納町6-5-1）  
神戸市埋蔵文化財センター保管
- ⑦ みやぎけん し まう ち ち か し き よ こ あ な ほ ぐん し ゆつ ど ひん  
宮崎県島内地下式横穴墓群出土品 千二十九点  
【所有者】えびの市（宮崎県えびの市大字栗下1292）  
えびの市歴史民俗資料館保管
- ⑧ かごしまけん まえぼる いせき し ゆつ ど ひん  
鹿児島県前原遺跡出土品 二百六十六点  
【所有者】鹿児島県（鹿児島県鹿児島市鴨池新町10-1）  
鹿児島県立埋蔵文化財センター保管

## <歴史資料の部>

(文化財を重要文化財に 6件)

- ① じょうやくならびにどりようこうほうかんけいげんきメートル条約並度量衡法関係原器 四本  
【所有者】独立行政法人産業技術総合研究所（東京都千代田区霞が関1-3-1）  
計量標準総合センター保管
- ② せんだいはんてんもんがくきき仙台藩天文学器機 四基  
【所有者】仙台市（宮城県仙台市青葉区国分町3-7-1）  
仙台市天文台保管
- ③ せかいおよびにほんず世界及日本図 はつきよくびようぶ八曲屏風 一双  
【所有者】福井県（福井県福井市大手3-17-1）  
福井県立若狭歴史民俗資料館保管
- ④ くにもいつかんさいさく反射望遠鏡 はんしやぼうえんきよう国友一貫斎作 一基  
てんぼうごねん天保五年  
【所有者】上田市（長野県上田市大手1-11-16）  
上田市立博物館保管
- ⑤ とうじみえどうごおうほういんはんぎ東寺御影堂牛玉宝印板木 一枚  
【所有者】宗教法人教王護国寺 きやうおうごこくじ（京都府京都市南区九条町1）
- ⑥ つしまそうけかんけいしりよう対馬宗家関係資料 一万六千六百六十七点  
【所有者】長崎県（長崎県長崎市江戸町2-13）  
長崎県立対馬歴史民俗資料館保管

## 3. 登録有形文化財（美術工芸品）の登録

### <考古資料の部>

(文化財を登録有形文化財に 1件)

- ① すわちいきこうこしりよう諏訪地域考古資料 ふじもりえいちしゅうしゅうひん（藤森栄一蒐集品） 五万九千六百二十八点  
【所有者】諏訪市（長野県諏訪市高島1-22-30）  
諏訪市博物館保管



## Ⅱ. 解説

### 【国宝（美術工芸品）の指定】

#### <絵画の部>

（重要文化財を国宝に 1件）

① <sup>けんほんちやくしよくあみださんぞんぞう</sup>絹本著色阿弥陀三尊像 <sup>ふえつひつ</sup>普悦筆

三幅

【大きさ】 <sup>あみだふく</sup>阿弥陀幅 縦125.5cm 横48.5cm  
<sup>かんのんふく</sup>観音幅 縦127.5cm 横48.8cm  
<sup>せいしかく</sup>勢至幅 縦127.2cm 横48.5cm

【所有者】 <sup>しやうじやうけいん</sup>宗教法人清浄華院（京都府京都市上京区寺町通広小路上る北ノ辺町395）  
京都国立博物館寄託

本図は、各幅画面上部に「<sup>しめいふえつひつ</sup>四明普悦筆」の落款があり、<sup>にんぼう</sup>寧波で活躍した普悦により描かれた中国仏教絵画である。

極めて遺例の少ない南宋以前に遡る絵画であり、本図ほど完成度の高い表現力を有する遺例は他にないことから、東アジア仏教絵画史を考えるうえで不可欠な作品として、文化的意義が極めて高い。

（南宋時代）

#### <考古資料の部>

（重要文化財を国宝に 1件）

① <sup>どぐう</sup>土偶 <sup>やまがたけんにしのまえいせきしゆつど</sup>山形県西ノ前遺跡出土

一箇

【大きさ】 高 45.0cm

【所有者】 山形県（山形県山形市松波2-8-1）  
山形県立博物館保管

本資料は、逆三角形で扁平に造られた胴部に、太い角柱状の左右の脚部を接合し、女性像に仕上げられた縄文時代中期の立像土偶である。

縄文時代の土偶造形のひとつの到達点を示す優品として代表的な資料であり、学術的価値が極めて高い。

（縄文時代）

## 【重要文化財（美術工芸品）の指定】

### <絵画の部>

（重要美術品を重要文化財に 1件）

- ① けんぽんちやくしよくいしだまさつぐぞう 絹本著色石田正継像 一幅  
ぶんろくさんねんくがつほくぼえりようさん 文禄三年九月伯蒲慧稜の賛がある

【大きさ】縦 99.0cm 横 53.3cm

【所有者】宗教法人壽聖院（京都府京都市右京区花園妙心寺町44）  
大阪市立美術館寄託

本図は、石田三成の父、正継の晩年の寿像である。図上には、正継の菩提所である壽聖院かいさんの開山、龍安寺の伯蒲慧稜ほくぼえりようの著賛がある。鋭い眼光を示す個性的な相貌を写實的に描き、白い小袖の桐文様が黒染めの直綴じきとつを通して透けて見える繊細な表現描写を用いている。

桃山時代の遺品のうち製作優秀であり、文化史上貴重なものである。

（桃山時代）

（文化財を重要文化財に 2件）

- ① どうほんがとうとめいしよず 銅版画東都名所図 一帖  
あおうどうでんぜんひつ 亜欧堂田善筆  
(二十五図)  
どうほんがみほんじよう 銅版画見本帖 一帖  
あおうどうでんぜんひつ 亜欧堂田善筆  
(十二図)

【大きさ】東都名所図 縦 10.6cm 横 15.3cm ほか  
銅版画見本帖 縦 28.4cm 横 21.8cm ほか

【所有者】須賀川市（福島県須賀川市八幡町135）  
須賀川市立博物館保管

本作品は、洋風画法や銅版画を研究し、しばこうかん司馬江漢に始まるふしよくどうほんが腐蝕銅版画をより精緻なものに発展させた、亜欧堂田善（1748年～1822年）により制作された。

江戸の名所図、見本帖などの銅版画作品に加えて、それぞれの原版が含まれ、田善の銅版画技法確立の過程をうかがうことができる作品として貴重である。

（江戸時代）

② 絹本著色三十三所観音像

一幅

【大きさ】縦 197.1cm 横 146.1cm

【所有者】宗教法人華厳寺（岐阜県揖斐郡揖斐川町谷汲徳積23）  
大阪市立美術館寄託

本図は、院政期に確立した西国三十三観音霊場の各本尊を山水の中にあらわしたものである。

本図の制作時期は鎌倉時代にさかのぼり、現在知られる同形式の画像の最古の遺例である。縦2メートルに近い巨幅に、三十三体の観音像と一体の如来像を、細密な皆金色によって表現した作品として制作が優秀であり、我が国の中央作であると見なせる作品として貴重である。

（鎌倉時代）

<彫刻の部>

（文化財を重要文化財に 14件）

① 木造天王立像

一軀

【大きさ】像高 178.4cm

【所有者】国（文化庁保管）

本像は、京都府亀岡市大宮神社境外仏堂伝来の神将形像で、四天王像もしくは二天王像のうちの一軀と推定される。

鋭角的ながら浅めの彫り口、厚みはあるがなだらかな肉取りをみせる軀軀などから、製作年代は10世紀後半と考えられ、平安時代中期に遡る大型天部像として貴重である。

（平安時代）

② 木造不動明王坐像

一軀

【大きさ】像高 85.2cm

【所有者】宗教法人明王院（神奈川県鎌倉市十二所32）

本像は、鎌倉幕府四代将軍藤原頼経の発願により、寛喜3年（1231年）から嘉禎元年（1235年）にかけて造られた鎌倉五大堂の本尊、五大明王像の中尊にあたりとみられる作例であり、その作者は当代の代表的な仏師の一人、肥後定慶であるとする説がある。

由緒と作行の両面で13世紀鎌倉地方彫刻を代表する作例の一つとして貴重な作品である。

（鎌倉時代）

③ 木造蘭溪道隆坐像（西来庵開山堂安置）

一軀

【大きさ】像高 62.1 cm

【所有者】宗教法人建長寺（神奈川県鎌倉市山之内8）

本像は、建長寺開山の中国僧、蘭溪道隆（大覚禪師、1213年～1278年）の肖像で、没年前後の作であると考えられる。

深く変化に富んだ衣文など、力強い造形から慶派仏師の手になるとみられ、いわゆる頂相彫刻の名品として評価される。

（鎌倉時代）

④ 木造十二神将立像

十二軀

【大きさ】像高 67.6～91.2 cm

【所有者】宗教法人曹源寺（神奈川県横須賀市公郷町3-23）  
東京国立博物館寄託

本像は、正安2年（1300年）の修理銘に建久年間（1190年～1199年）の製作と記される十二神将像であり、作風から運慶周辺の仏師によるものと考えられる。

十二軀が完存し保存状態がよいことや、図像的に東国の十二神将像の起点となる特徴を具えていることでも注目される。

鎌倉初期運慶派の力強い造形を示す作例であり、また東国鎌倉彫刻中の重要作品として評価される。

（鎌倉時代）

⑤ 木造神像

男神坐像 一  
女神坐像 一

二軀

【大きさ】像高 男神 68.4 cm

女神 59.8 cm

【所有者】宗教法人箱根神社（神奈川県足柄下郡箱根町元箱根80-1）

本像は一对の男女神像で、目鼻立ちの彫りが共通することなどから同じ作者の手になると見られる。作風および女神像の足部（亡失）の接合方法などに11世紀の特徴を示し、男神の鼻の高い相貌に外来神としての特色が認められるなどの点が注目される。

関東地方に遺る神像の最古の遺品として貴重である。（平安時代）

⑥ もくぞうせんじゆかんのんざぞう 木造千手観音坐像

一軀

ぞうない 像内にほうげんさんねん 保元三年、だいぶつしそうだやくしやう 大仏師僧寂勝、ほんたいおんみのとのくにあ 本躰御身能登国阿れいぼくなど 口口口靈木等めいの銘がある

【大きさ】像高 74.2 cm

【所有者】宗教法人海門寺かいもんじ（石川県七尾市大田町5-74）

本像は、優雅で平明な平安後期様式を示す千手観音像である。像内銘より保元3年（1158年）に造られたことや、御衣木として出羽立石寺ほか各地から収集してきた靈木を用いたことが判明する。

平安時代後期の貴重な在銘彫刻であるのみならず、当時の造像儀礼の様相を示す資料として価値が高い。

（平安時代）

⑦ もくぞうせんじゆかんのんりゆうぞう 木造千手観音立像

一軀

【大きさ】像高 186.0 cm

【所有者】宗教法人高成寺こうじやうじ（福井県小浜市青井1-11-1）

本像は、等身の千手観音像で、針葉樹の一木造である。厚みのある躰型や衣部に刻まれる翻波式衣文などに、平安時代前期（9世紀半ば～後半）の特色を示す。若狭姫神社伝来と伝えられていることから、神仏習合に関わる造像の可能性がある。

遺品の少ない9世紀彫像の中でも優れた作行を示す像として貴重である。

（平安時代）

⑧ もくぞうあいぜんみやうおうざぞう 木造愛染明王坐像

一軀

ぞうない 像内にこうすいりもくぞうあいぜんみやうおうざぞう 合子入木造愛染明王坐像を納める

【大きさ】像高 102.5 cm

【所有者】宗教法人甚目寺じもくじ（愛知県あま市甚目寺東門前24）

本像は、弘安7年（1284年）の文書により東密岩藏流の祖、良胤の弟子、浄胤らが師の等身大に造ったことが判明する愛染明王である。

像内胸部に白檀（か）製の愛染明王像を籠めており、また左第三手掌内に鉾物（か）製の珠を籠め、像内を白く塗るなど様々な特色ある工作を施し、鎌倉時代愛染明王像の中で注目される作例である。

（鎌倉時代）

⑨ 木造獅子

一軀

【大きさ】全高 40.4 cm

【所有者】宗教法人教王護国寺（京都府京都市南区九条町1）

本像は、たてがみを逆立てて威嚇の形相を示す獅子の像で、迫力に富んだ造形から作期は9世紀前半に遡るとみられ、承和6年（839年）供養とされる講堂諸尊像の中尊、大日如来像の台座に配されていたとも推定される。

木造動物彫刻として最古の作例であり、平安時代の彫像としても製作優秀な遺品として貴重である。

（平安時代）

⑩ 木造弥勒仏坐像

一軀

【大きさ】像高 147.0 cm

【所有者】宗教法人弥勒寺（奈良県大和高田市土庫2-8-13）  
奈良国立博物館寄託

本像は、全体的に太づくりであるが彫り口は穏やかで優しい表情の半丈六の一木彫像である。

作風や形式には10世紀後半から11世紀前半の奈良地方における造像の典型的な特色を示し、両足部まで共木で彫出する豪快な構造をみせる。

近年の調査により見出された作例であり、この時期の奈良における大型彫像として貴重である。

（平安時代）

⑪ 木造天神坐像

一軀

像内に奉造立与喜大明神御正躰、正元元年五月等の銘がある  
像内に十一面観音鏡像を納める

【大きさ】像高 96.8 cm

【所有者】宗教法人與喜天満神社（奈良県桜井市初瀬1）  
奈良国立博物館寄託

本像は、厳しい忿怒の形相を示す天神像で、像内に正元元年（1258年）、与喜大明神等の銘があり、頭部には天神の本地である十一面観音を線刻した鏡を籠める。

天神彫像の最古作例であり、鎌倉時代の神像彫刻の代表的な遺品の1つとして貴重である。

（鎌倉時代）

- ⑫ <sup>もくぞうしゆこんごうしんりゆうぞう</sup>木造執金剛神立像 一軀  
<sup>ぞうない</sup>像内に「<sup>ぼんじ</sup>ア(梵字)阿<sup>あみだぶつ</sup>弥陀<sup>めい</sup>仏の銘がある  
<sup>もくぞうじんじやだいしよりゆうぞう</sup>木造深沙大将立像 一軀

【大きさ】像高 執金剛神 135.2cm  
 深沙大将 135.4cm

【所有者】宗教法人<sup>こんごうぶじ</sup>金剛峯寺（和歌山県伊都郡高野町高野山132）  
 高野山靈宝館保管

本像は、「<sup>なむあみだぶつぜんしゆう</sup>南無阿<sup>こうやしんべつしよ</sup>弥陀<sup>ちようげん</sup>仏作善集」所載の高野新別所に重源が安置した像にあたとみられる一対の像であり、生々しく激しい忿怒の表情に特色がある。

最近、像内に「ア(梵字)阿<sup>あみだぶつ</sup>弥陀<sup>めい</sup>仏」の銘記と経巻2巻が存在することが判明した。

極めて類品の少ない作例の1つであり、鎌倉時代初期の慶派<sup>けいはい</sup>仏師による特色に富んだ造形を示す作例として貴重である。

(鎌倉時代)

- ⑬ <sup>もくぞうあしかがたかうじざぞう</sup>木造足利尊氏坐像 一軀

【大きさ】像高 94.5cm

【所有者】宗教法人<sup>あんこくじ</sup>安国寺（大分県国東市国東町安国寺2245）

本像は、京都東山にあった<sup>ひがしいわくらでら</sup>東岩藏寺旧在の足利尊氏像で、応仁の乱後に山科地蔵寺に移され、明治40年に安国寺にもたらされた。

東岩藏寺は、南北朝の動乱期に将軍家御祈禱所となっており、本像は二代義詮<sup>よしあきら</sup>により奉納されたとも推定される。

構造技法から足利将軍家に重用された院派<sup>いんぱ</sup>の作家によるものとみられ、足利尊氏の彫刻として最も古く、中世俗人彫刻の代表的な作例の1つとして貴重である。

(南北朝時代)

- ⑭ <sup>どうぞうかんのんぼさつりゆうぞう</sup>銅造観音菩薩立像 一軀  
<sup>だいざかまち</sup>台座<sup>じんいん</sup>框に<sup>こくめい</sup>壬寅年の刻銘がある

【大きさ】像高 30.1cm

【所有者】宗教法人<sup>はせでら</sup>長谷寺（大分県中津市三光西秣1893）  
 中津市歴史民俗資料館寄託

本像は、頭上<sup>ざけぶつ</sup>に坐化仏を戴く観音像で、台座<sup>だいざかまち</sup>框の刻銘により、壬寅の歳に周防凡<sup>じんいん</sup>直<sup>すおうおおしのあたい</sup>の百背<sup>ももせ</sup>の母が亡くなったことにより誓願して造られたことが知られる。本像が中国隋風の様式を承けていることから、壬寅<sup>たいぼう</sup>は大宝2年(702年)であると考えられる。

飛鳥末期の在銘金銅仏として、彫刻史上価値が高い。

(飛鳥時代)

## <工芸品の部>

(重要美術品を重要文化財に 1件)

① <sup>あからくうさぎもんこうごう</sup>赤楽兔文香合 <sup>こうえつさく</sup>光悦作 一合

【大きさ】総高 3.5 cm 口径 8.5 cm 底径 7.0 cm

【所有者】公益財団法人出光美術館（東京都千代田区丸の内3-1-1）

本作品は、本阿弥光悦（1558年～1637年）作の赤楽香合である。香合自体を満月に見立てたものと推測され、表蓋には白泥と鉄絵具で、中央に大きく一羽の兔を描き、その周りに草文が配される。

光悦の作品では数例しか遺例が知られない香合の作品として重要であるとともに、光悦の作品を代表する優品である。

(江戸時代・17世紀)

(文化財を重要文化財に 3件)

① <sup>えがらつあしもんおおざら</sup>絵唐津芦文大皿 一枚

【大きさ】高 8.4 cm 口径 35.3 cm 高台径 9.7 cm

【所有者】国（文化庁保管）

本作品は、唐津の中で鉄絵具で文様を描く絵唐津の作品である。口径35センチメートルを越す大皿で、内面全体に芦の文様を手慣れた筆致で伸びやかに描く。

絵唐津では遺例が極めて少ない完存する大皿で、絵唐津を代表する優品として貴重である。

(桃山時代・17世紀)

② <sup>はいかつぎてんもくちやわんにじ</sup>灰被天目茶碗(虹) 一口

【大きさ】高 6.9 cm 口径 12.2 cm 高台径 4.4 cm

【所有者】国（文化庁保管）

本作品は、灰被と呼ばれ、曜変、油滴、玳瑁蓋とともに唐物天目茶碗を代表するもので、室町時代末期から桃山時代前半に重用された茶の湯の茶碗である。

灰被天目茶碗の中で極めて遺例が少ない足利義政所持とされる大名物の一つで、灰被天目茶碗を代表する優品であるとともに、茶道文化史上貴重な遺例である。

(元時代・14世紀)



③ 伝法衣

五領

【大きさ】縦 126.0cm 横 343.0cm ほか

【所有者】宗教法人東福寺（京都府京都市東山区本町15-778）  
京都国立博物館寄託

東福寺開山円爾にまつわる伝法衣として、延宝5年（1677年）銘のある伝衣箱に一括して保管されてきた袈裟五領である。袈裟墨書や箱書により、臨済宗楊岐派僧所用の伝来が推定される。

田相、条葉の裂に、南宋時代、鎌倉時代と考えられる綾、紗、羅、刺納、錦などを用いており、中世染織を考えるうえで重要な遺例である。

（南宋時代、鎌倉時代）

<書跡・典籍の部>

（重要美術品を重要文化財に 1件）

① 長秋詠藻

一帖

【大きさ】縦 22.8糎 横 14.8糎

【所有者】学校法人日本大学（東京都千代田区西神田2-6-16）  
日本大学総合学術情報センター保管

『長秋詠藻』は、藤原俊成（1114年～1204年）が治承2年（1178年）3月に自撰し、同年夏に仁和寺の守覚法親王（1150年～1202年）に進献した私家集である。中世和歌の出発点となった俊成の余情の深い幽玄の歌風が認められる。

現存する古伝本が少ないなかで、本書は鎌倉時代後期に書写された古写本として貴重である。

（鎌倉時代）

(文化財を重要文化財に 4件)

① 釈氏往来

しょうあんよねんじゅうがつにじゅうよつかしよしやおくがき  
正安四年十月廿四日書写奥書

一卷

【大きさ】縦 27.8 糎 全長 1027.2 糎

【所有者】国 (国立国会図書館保管)

『釈氏往来』は、<sup>しゆかくほつしんのう</sup>守覚法親王の撰述になると伝えられる<sup>おうらいもの</sup>往来物の一種である。高僧間あるいは僧侶と朝廷役人との間における問答状の形式で、仏家一年間の主要な行事を簡単明瞭な文体で記した消息文の模範文例集である。

本書は、正安4年(1302年)の書写になる現存最古写本として貴重である。

(鎌倉時代)

② 玉篇卷第九零卷

ぎよくへんかんだいきゅうれいかん  
しはいこんごうかいしき じあんがんねんしよしや  
紙背金剛界私記(治安元年書写)

一卷

【大きさ】縦 27.1 糎 全長 168.7 糎

【所有者】独立行政法人国立文化財機構 (東京都台東区上野公園13-9)  
京都国立博物館保管

『玉篇』は、<sup>りょう</sup>梁の大同年間(535年～546年)に<sup>こやおう</sup>顧野王の撰述によるもので、<sup>へん つくり</sup>偏・旁により漢字を542部に類別する部首別の漢字字書である。

本書はその書風などから8世紀の書写とみられる唐写本で、紙背には治安元年(1021年)の書写になる「<sup>こんごうかいしき</sup>金剛界私記」があることから、それまでには伝来していたことが確認できる。国宝の早稲田大学本の欠失箇所<sup>こ</sup>に接続するものである。

中国では散逸し、わが国にのみ伝存するものとして極めて貴重である。

(唐時代)

③ <sup>みねあいき</sup>峯相記

一冊

<sup>えいしやうはちねんにがつなのかけいしやうしよしやおくがき</sup>  
永正八年二月七日慶紹書写奥書

【大きさ】縦 26.0 糎 横 18.8 糎

【所有者】宗教法人<sup>いかるがでら</sup>斑鳩寺（兵庫県揖保郡太子町鷗709）  
太子町立歴史資料館寄託

『峯相記』は、<sup>じやうわ</sup>貞和4年（1348年）に播磨国の<sup>ぶそうざんけいそくじ</sup>峯相山鷄足寺に参詣した旅僧が、旧知の老僧に遇って伝聞筆録するという手法により書いたものである。国内の寺社の縁起や旧事伝承などを記録しており、なかでも悪党の<sup>いるいぎやう</sup>異類異形の姿やその活動に係る描写は生彩に富み具体的である。

本書は、<sup>えいしやう</sup>永正8年（1511年）の慶紹の書写になる現存する最古写本であり、鎌倉時代末から南北朝時代の播磨国の様相を知るうえで貴重な地誌である。

（室町時代）

④ <sup>ていきんおうらい</sup>庭訓往来

二巻

<sup>しとくさんねんしもつきみつかぶぜんのかみともひでしよしやおくがき</sup>  
至徳三年霜月三日豊前守朝英書写奥書

【大きさ】上巻 縦 33.1 糎×全長 1430.6 糎

下巻 縦 33.1 糎× 横 1446.1 糎

【所有者】宗教法人<sup>かんどじ</sup>神門寺（島根県出雲市塩冶町821）

『庭訓往来』は、南北朝時代に撰述された往来物である。武士らの子弟を対象としたもので、一年各月にわたって往復した手紙を集めた形式で編纂されている。手紙を通して日常生活に必要な用語や一般常識を教え、基礎教育書あるいは手習書として広く用いられたことから、往来物を代表するものである。

本書は、至徳3年（1386年）の豊前守朝英の書写になる現存する最古写本として貴重である。

（南北朝時代）

## <古文書の部>

(重要美術品を重要文化財に 1件)

- ① <sup>りんせんじりようおおいごうかいほんえず</sup>臨川寺領大井郷界畔絵図 一鋪  
<sup>じようわさんねんちゆうとうむそうそせきうらがき</sup>貞和三年仲冬夢窓疎石裏書

【大きさ】縦 211.1 糎 横 140.8 糎

【所有者】宗教法人<sup>てんりゆうじ</sup>天龍寺（京都府京都市右京区嵯峨天竜寺芒ノ馬場町68）  
京都国立博物館寄託

本図は、貞和3年（1348年）の夢窓疎石（1275年～1351年）の裏書から、臨川寺と天龍寺とが対立することなく、寺領を維持できるように作成したことが知られる。臨川寺の所領は朱線にて囲んでいる。

寺領の表記のほかにも、臨川寺、天龍寺など嵯峨の諸寺院や在家、大堰川、橋など嵯峨の空間を描いた絵図として貴重である。

(南北朝時代)

(文化財を重要文化財に 5件)

- ① <sup>めいげつき</sup>明月記 <sup>じひつぽん</sup>自筆本 二巻  
<sup>かるくがねんなつ</sup>嘉禄元年夏、<sup>てんぶくがねんじゆういち・じゆうにがつ</sup>天福元年十一・十二月

【大きさ】嘉禄元年本 縦 29.4 糎 全長 1396.9 糎

天福元年本 縦 27.8 糎 全長 851.2 糎

【所有者】学校法人日本大学（東京都千代田区西神田2-6-16）  
日本大学総合学術情報センター保管

『明月記』は、<sup>ふじわらのさだいえ</sup>藤原定家（1162年～1241年）の自筆日記である。源平の乱から承久の乱後に至る変動期の朝廷・公家社会の実相や鎌倉幕府の動静をはじめ、定家自らの文学活動や所感などを記した鎌倉時代研究の第一級史料である。

嘉禄元年（1225年）夏と天福元年（1233年）11月・12月の各一巻からなり、嘉禄元年本は承久の乱後において現存する最初の一巻、天福元年本は巻物としてまとまって現存する最終の一巻として、貴重である。

(鎌倉時代)

② 竹生島文書(三百十二通)

五巻、十三幅、四十九冊、  
二帖、二百四十三通

【所有者】宗教法人宝巖寺(滋賀県長浜市早崎町1664)  
長浜市長浜城歴史博物館寄託

本文書は、琵琶湖の竹生島にある宝巖寺に伝来する文書群である。近江守護佐々木氏や京極、六角ら武家からの文書が豊富である。

竹生島の信仰である観音霊場と弁財天信仰の祭礼である蓮華会に関する文書・記録、造営に関する勸進状、奉加帳などがあり、系統的にまとまって伝存する古文書として学術的価値が高い。

(鎌倉時代～明治時代)

③ 鵜庄引付

一冊

【大きさ】縦 30.7 糎 横 22.0 糎

【所有者】宗教法人斑鳩寺(兵庫県揖保郡太子町鵜709)  
太子町立歴史資料館寄託

本書は、播磨国にある法隆寺領の庄園である鵜庄を支配する上で、執務の便宜のために政所が代々書き継いだ記録である。

複数冊を取り集めて一冊にしたもので、応永5年(1398年)から天文14年(1545年)まで年次を追って記載している。

中世後期における百姓逃散、勸進猿楽など、村落生活の実態を知るうえで貴重な史料である。

(室町時代)

④ 大山祇神社三島家文書(二百十通) 十六巻、二幅、百十通

【所有者】宗教法人大山祇神社(愛媛県今治市大三島町宮浦3327)

本文書は、伊予国一宮で、航海の神としても崇敬を集めた大山祇神社と、神社の大祝であるとともに鎌倉御家人としても活動した三島家に伝来した鎌倉時代から江戸時代までの文書群である。文書以外の縁起、祭礼記録や絵図などからは、神社の様相が具体的に窺える。

瀬戸内の具体的な動静や河野氏らの盛衰をも知ることができる史料として、学術的価値が高い。

(鎌倉時代～江戸時代)

⑤ おだけもんじよ よんじゆうはちつう 小田家文書(四十八通)

一卷

【所有者】長崎県（長崎県長崎市江戸町2-13）  
長崎県立対馬歴史民俗資料館保管

本文書は、対馬よら与良郡大山おやまの小田家に伝来した中世文書群であり、その多くが少弐氏しょうにや対馬島主宗氏そうからの文書である。

対馬の地理的・歴史的な状況を反映して、網による漁業、塩屋での製塩など対馬の海民の様相を伝えるとともに、高麗・九州との交易関係などを具体的に伝える稀有な史料として、学術的価値が高い。

（鎌倉時代～安土桃山時代）

<考古資料の部>

（文化財を重要文化財に 8件）

① あおもりけん に まいばし に いせき し ゆつど ひん 青森県二枚橋2遺跡出土品

千三百八点

【所有者】むつ市（青森県むつ市中央1-8-1）

本資料は、配石遺構等はいせきこうが築かれた縄文時代晩期の遺跡から出土した多量の土器・土製品、石器・石製品の一括資料である。土器・土製品には晩期後半の精緻なつくりの土器が多く、完形品を含む土偶80点など、精神文化にかかわる遺物が多数含まれる。

殊に土面の出土数は現在のところ全国最多であり、当時の生活の実態に加えて、祭祀を含む精神活動の多彩さを考えるうえで、他に比類のない内容を有する資料として、極めて学術的価値が高い。

（縄文時代）

② <sup>どぐう</sup>土偶

<sup>あおもりけんありととりいたいよんいせきしゆつど</sup>  
青森県有戸鳥井平4遺跡出土

一箇

【大きさ】高 32.0cm

【所有者】野辺地町（青森県上北郡野辺地町野辺地123-1）

野辺地町立歴史民俗資料館保管

本資料は、胴部を逆三角形につくる東北地方特有の<sup>ぼんじょう</sup>板状土偶の形態をとり、これに短いながら前後に張り出した脚先を付した大形の立像土偶である。

縄文時代後期における東北地方を代表する土偶として、造形的な特色を良く示す。また、遺存状態も極めてよく、出土状態も明らかな土偶として、極めて学術的価値が高い。

（縄文時代）

③ <sup>ふくいけんくわのいせきしゆつどひん</sup>福井県桑野遺跡出土品

八十五点

【所有者】あわら市（福井県あわら市市姫3-1-1）

あわら市教育委員会保管

本資料は、縄文時代早期末から前期初頭の集団墓地と推定される24基の土坑から出土した多量の石製品の一括資料である。

白色で優美な石材を素材としたけつ状耳飾を中心に構成され、縄文時代における石製装身具の製作技法や、定型的な形態の確立を示す好資料であり、当時の精神文化を考えるうえで極めて学術的価値が高い。

（縄文時代）

④ <sup>あいちけんあさひいせきしゆつどひん</sup>愛知県朝日遺跡出土品

二千二十八点

【所有者】愛知県（愛知県名古屋市中区三の丸3-1-2）

愛知県埋蔵文化財調査センター保管

本資料は、弥生時代前期から終末期に亘って存続した東海地方屈指の大規模な集落遺跡である朝日遺跡からの出土品である。

<sup>たじゆうかんこう</sup>多重環濠に囲まれた居住域と多数の<sup>ほうけいしゆうこうぼ</sup>方形周溝墓などが検出されているほか、埋納状態が明らかな銅鐸、赤彩土器、多数の木器類など遺物が多彩であることから、拠点集落の実態を知るうえで欠かせない資料として学術的価値が高い。

（弥生時代）

⑤ あいちけんまごしながひづかこふんしゆつどひん 愛知県馬越長火塚古墳出土品

三百十一点

【所有者】豊橋市（愛知県豊橋市今橋町1）  
豊橋市美術博物館保管

本資料は、6世紀後半の墳丘長70メートルの前方後円墳にある横穴式石室を主体とする出土品一括資料である。鉄地金銅張馬具てつちこんどうばりばぐや鉄製品、蜻蛉玉とんぼだま、琥珀玉こはくだまなどを中心とする多彩な副葬品で構成される。

東海地域における首長墓の葬送祭祀の実態を明らかにするとともに、馬具や蜻蛉玉にみられる高い水準の工芸技術を示すことから、古墳時代文化の解明に欠かせない重要な資料として、極めて学術的価値が高い。

（古墳時代）

⑥ ひょうごけんごしきづかこふんしゆつどひん 兵庫県五色塚古墳出土品

四十八点

【所有者】神戸市（兵庫県神戸市中央区加納町6-5-1）  
神戸市埋蔵文化財センター保管

本資料は、兵庫県にある4世紀後半の前方後円墳から出土した埴輪、土器、土製品の一括資料である。

墳丘を囲繞する鱗付埴輪いじょう ひれつきは、当該期に特有の埴輪であり、首長墓にふさわしく質・量ともに傑出した内容をもつほか、墳頂からは小型土製品が出土し、埴輪とともに古墳祭祀の状況を示す。

当時における大王墓級の古墳祭祀を知るうえで、極めて学術的価値が高い。

（古墳時代）

⑦ みやざきけんしまうちちかしきよこあなぼぐんしゆつどひん 宮崎県島内地下式横穴墓群出土品

千二十九点

【所有者】えびの市（宮崎県えびの市大字栗下1292）  
えびの市歴史民俗資料館保管

本資料は、霧島連山に囲まれた、加久藤盆地かくとうに位置する地下式横穴墓群（5～6世紀）からの出土品一括資料である。

地下式横穴墓は、南九州に特有の墓制で、地下の空間を保ったまま発見される事例が多く、鉄製品の遺存状態が極めて良いのが特徴である。

豊富な武器、武具から構成され、古墳時代中期の武装や葬送儀礼の地域性を知るうえで、極めて重要な資料である。

（古墳時代）



かごしまけんまえはらゐせきしゆつどひん  
⑧ 鹿児島県前原遺跡出土品

二百六十六点

【所有者】鹿児島県（鹿児島県鹿児島市鴨池新町10-1）  
鹿児島県立埋蔵文化財センター保管

本資料は、縄文時代早期前半の集落跡から出土した、多量の土器・土製品、石器の一括資料である。

土器は、南九州地域かくとうのみに分布する角筒土器が含まれ、造形的にも器形的にも他の地域・時期には見られない特徴的な一群となっているほか、縄文土器の型式変遷とその形態の変化を考えるうえで貴重な資料である。また、遺存状態の良好な個体も多く、九州における土器造形の到達点を示すものとして、極めて学術的価値が高い。

（縄文時代）

<歴史資料の部>

（文化財を重要文化財に 6件）

じょうやくならびにどりようこうほうかんけいげんき  
① メートル条約並度量衡法関係原器

四本

【所有者】独立行政法人産業技術総合研究所（東京都千代田区霞が関1-3-1）  
計量標準総合センター保管

本資料は、明治18年（1885年）の日本のメートル条約加盟により分配されたメートル原器と、明治24年（1891年）に公布された度量衡法により制定された尺貫法に基づき、国際度量衡委員会に製作を依頼して受領した尺原器である。

我が国従来の複雑かつ多様な度量衡制度を国際的な基準に準拠する体系的なものとした原器であり、日本の近代における度量衡の原点に位置する根本資料として、歴史上及び学術上価値が高い。

（19世紀）

せんだいはんでんもんかくきき  
② 仙台藩天文学器機

四基

【所有者】仙台市（宮城県仙台市青葉区国分町3-7-1）  
仙台市天文台保管

本資料は、我が国に現存する渾天儀こんてんぎのうち唯一実際の天体観測に使用された青銅製の大型渾天儀1基のほか、観測記録や目盛りの特色から前述の渾天儀と関係性が認められる天球儀てんきゆうぎ2基、副尺を有する高精度の緯度観測器機しやうげんぎである象限儀1基である。

これらの観測器機は、江戸時代における仙台藩の天文学の実態のみならず、江戸時代の天体観測の精度などの実態を伝えるものとして、我が国の天文学史上貴重な遺品であり、歴史上及び学術上価値が高い。

（江戸時代）

③ せかいおよびにほんず 世界及日本図 はつきよくびようぶ 八曲屏風

一双

【大きさ】各隻 縦 118.0cm 横 375.0cm

【所有者】福井県（福井県福井市大手3-17-1）

福井県立若狭歴史民俗資料館保管

本資料は、一隻に行基図系日本図、一隻に南蛮系世界図を描く地図屏風である。本図のように世界図が卵形図法にて描かれるものは、地図屏風のなかで最も古い形式と考えられる。既に指定されている重要文化財の2例と比較すると、地形、地名表記、描写法などが大略一致することから、同系統の図と認められるものである。

朝鮮半島、中国東北部から、西欧、新大陸にいたるまで世界全体の地理情報を飛躍的に獲得した時代に制作された遺品として、我が国の文化史上貴重であり、学術的価値が高い。

（安土桃山時代）

④ はんしやぼうえんきよう 反射望遠鏡 くにともいつかんさいさく 国友一貫齋作 てんぼうごねん 天保五年

一基

【所有者】上田市（長野県上田市大手1-11-16）

上田市立博物館保管

本資料は、天保5年（1834年）に鉄砲鍛冶の国友一貫齋（1778年～1840年）が、我が国ではじめて製作した反射望遠鏡である。

本資料は、附属品類も残っていて状態が良く、また、江戸時代における天文学並びに金属加工技術の到達点の高さを示す資料であることから、我が国の科学技術史上貴重であり、学術的価値が高い。

（江戸時代）

⑤ とうじみえどうごおうほういんほんぎ 東寺御影堂牛玉宝印板木

一枚

【所有者】宗教法人教王護国寺（京都府京都市南区九条町1）

本資料は、針葉樹とみられる板材を用い、「牛玉／御影堂／宝印」の文字を三行にわたり陽刻彫出したもので、東寺牛玉宝印摺写に用いられた板木である。

牛玉宝印は、護符や起請文料紙として中世以降広く社会に流布したが、「御影堂牛玉宝印」の文字を摺写した牛玉宝印料紙は、永和4年（1378年）から天文23年（1554年）に至る23通が伝来し、本板木が南北朝時代に制作され、以後連綿と使用されてきたことが判明する。

遺例が少ない中世に遡る牛玉宝印の板木として、学術的価値が高い。

（南北朝時代）

つしまそうけかんけいしりょう  
⑥ 対馬宗家関係資料

一万六千六百六十七点

【所有者】長崎県（長崎県長崎市江戸町2-13）  
長崎県立対馬歴史民俗資料館保管

本資料は、旧対馬藩主宗家伝来資料のうち、江戸時代初期から明治5年（1872年）までの記録類である。

記録類は、国元の藩主部局、家老部局、その他の藩庁各部局で作成し保管されたものであり、なかでも表書札方、奥書札方、朝鮮方等が作成した「毎日記」約3,800冊は、寛永11年（1634年）以降の藩政、朝鮮貿易等の推移を概括的に伝える好史料で、他藩と比較して卓越した質量を誇る。

本資料は、江戸時代の政治・外交史上重要である。

（江戸時代～明治時代）

## 【登録有形文化財（美術工芸品）の登録】

### ＜考古資料の部＞

（文化財を登録有形文化財に 1件）

- ① すわらいきこうこしりょう 諏訪地域考古資料 ふじもりえいちしゅうしゅうひん（藤森栄一蒐集品） 五万九千六百二十八点

【所有者】 諏訪市（長野県諏訪市高島1-22-30）

諏訪市博物館保管

藤森栄一氏（1911年～1973年）は、中部高地における縄文文化の特質を研究し、縄文農耕の存在を主唱するなど、我が国先史考古学の研究の進展に大きく貢献した長野県諏訪市出身の考古学者である。

本蒐集品は、系統的、網羅的に収集されており、その内容には曾根遺跡そねの評価を位置づける諏訪湖底曾根遺跡出土品など、学術的に貴重な考古資料が多数含まれる。

（旧石器時代～縄文時代）

### Ⅲ. 参考

#### ○国宝・重要文化財（美術工芸品）の指定件数

種別 \ 事項	新規指定件数		合計
	国 宝	重要文化財	
絵 画	1	3	1, 977 (159)
彫 刻	0	14	2, 668 (126)
工 芸 品	0	4	2, 432 (252)
書跡・典籍	0	5	1, 887 (223)
古 文 書	0	6	745 (60)
考古資料	1	8	594 (45)
歴史資料	0	6	173 (3)
合 計	2	46	10, 476 (868)

(注) 合計欄括弧内の数字は国宝の件数で、内数である。

#### ○登録有形文化財（美術工芸品）の登録件数

種別 \ 事項	新規登録件数		合計
	国 宝	重要文化財	
絵 画	0		0
彫 刻	0		0
工 芸 品	0		3
書跡・典籍	0		1
古 文 書	0		0
考古資料	1		4
歴史資料	0		6
合 計	1		14